



p4cみやぎ9月研修会報告

オンラインによる p4c みやぎ9月研修会

9月2日(水)、オンラインによる p4c みやぎ9月研修会が行われました。

研修では、昨年9月下旬から今年3月までの約6か月、ハワイに滞在し、研究を進められた宮城教育大学の川崎惣一先生から講話をいただきました。その後の情報交換では、二つのグループに分かれ、p4cを行いました。短い時間でしたが、充実した研修会となりました。

【研修1 講話】

「p4c ハワイの取組について」

講師：宮城教育大学教授 川崎 惣一先生

○ワイキキ小について

・常に教育実習生が入り、ファシリテーターもしている。

・ランキングが高く、学校が成果を上げていることで自由度が高い学校である。

・「16の心の習慣」を実現するために、ほぼ全ての学級で週1回、p4cを行っている。

・ハワイアカデミーのスタッフが分担し、継続して各学級のp4cをサポートしている。

・月1回、保護者のためのp4cが実施されている。保護者もp4cについてある程度理解している。

・p4cの進め方は、学年、学級によって様々。

・学校の教育活動に、p4cが組み込まれている。

・子供たちは、幼稚園からp4cに取り組んでいるので、ルールを熟知している。

・先生たちが自分でp4cを工夫できる。

・世界中から、2～3週に1度くらい、見学者が訪れる。

○私たちが取り入れることができそうな点

・定期的にp4cを実践して経験値を積む。

・保護者にp4cについて理解してもらう。(可能



であれば、保護者の集まりで実践する。)

・大学のスタッフは、アドバイスではなく、サポートをする。あわてずにじっくり取り組む。p4cに失敗はないので、先生が楽しくやることが大事。

【研修2 2グループに分かれてのp4c】

○問い：「コロナ禍における新しい生活様式は、学生・子どもたちにどんな影響を与えているか。」

〈グループ1〉

・子どもたちの意欲の低下が心配。

・子どもたち自身が、この状況を冷静に分析できるようになってきた。その上で、できることを考えるようになった。

・子どもたちは、p4cをやりたいがっている。管理職もp4cに理解がある。

・例年通りにならない今だからこそ、今までと大きく変えるチャンスになる。

・大学生にとっては、就職活動も心配である。

・地域によって感染対策の意識が違う。円を作ることや大声が禁止されているところでは、紙コップやマグネットで意思表示を工夫している。

〈グループ2〉

・子どもたちなりに現状を受け止めている。思っていたよりタフ。SNSによるつながりが日常的になっている。学校行事がなくなり、直接的な関わりが下手で心配である。

・けんかが増え、合意形成が難しい。

・大学生はレポートは立派だが、横のつながりがないので、蝸壺に入っていることが心配。

・小学生の変化はつかみきれていない。

・高校では、学級作りが進んでいない。不登校も増えてきている。

・学校行事がないことで、学校は意外に楽になった部分はあるが、若い教員が達成感を味わっていない。

・震災後もそうだったように、受けた心の傷がいつか出てくると思っているべき。

HP (<http://p4c.miyakyo-u.ac.jp/>)

Mail (p4c@adm.miyakyo-u.ac.jp)